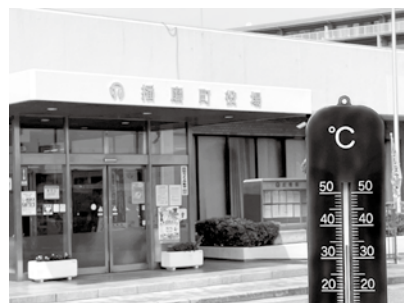




9月になっても暑い日がつづく

問 これからは今年のような暑い夏を通常と考え、まちづくりをする必要がある。そのために、暑さ対策を町全体で行うため、まちづくりの各種計画の中に暑さ対策の視点を盛り込む考えはないか。

答 まちづくりのビジョンの一つに「生活環境を良好に保つまちづくり」を掲げ、播磨町地球温暖化対策実行計画の策定を進めている。

問 温暖化対策は気温上昇を抑制するために必要だが、それで温度が下がるわけではない。暑さ対策は別で考えるべき。

暑さ対策



チーム新星
かんき ふみひさ
神吉 史久 議員

**各種計画に
暑さ対策を
文章での表現などを
考慮する**

答 「公園緑地と水辺環境の保全」も目標として掲げており、そのための取り組みが酷暑対策にもなっていると考える。ただ、そのあたりの関連が分かりにくいのであれば、文書表現などを考慮する。

浜幹線の40キロ規制を

問 町道浜幹線で令和7年4月に死亡事故が発生した。再度、加古川市・明石市と連携して40キロ規制に向けた働きかけができないか。

答 以前にも、警察に40キロ規制の要望をしているが、道路構造に变化がないと、制限速度変更の必要性がないと回答を得ている。

問 自転車レーンを作るなどの道路構造の変化があれば、40キロ規制が可能なのか。

答 車道の幅員が狭まるのでそういったことも考えられる。歩行者、自転車、自動車にとってどうするのが良いのか今後も考えていく。

RSVワクチン



公明党
きむら はるえ
木村 晴恵 議員

**重症化を防ぐ
ワクチンの助成を
妊婦への接種を
令和8年度から**

答 RSVウイルス感染症は、RSウイルスによって引き起こされる呼吸器の感染症である。乳幼児の発症の中心は0歳児と1歳児となり、成人が発症しても風邪のような症状になるが、慢性呼吸器疾患のある高齢者や免疫不全者などにとっては、急性の重症肺炎を起こす原因となる。

RSウイルスワクチンは、乳幼児や高齢者の重症化を防ぐ効果が期待できる。より多くの人が適切なタイミングでワクチン接種を受けられるような取り組みとして公費による補助が必要である。

問 乳児が生後6か月以内に感染した場合、細気管支炎や肺炎など重症化することがある。早期からの予防が大変重要であることから、希望する妊婦へのワクチン接種費用の一部助成を令和8年度より実施したい。

また、基礎疾患のある高齢者の肺炎の重症化を予防するため、肺炎球菌ワクチンの2回目の接種費用の一部を助成する。



ワクチン接種で予防

用の一部を助成する。
高齢者のRSウイルスワクチン接種に関しては、継続して国の厚生科学審議会の動向を注視する。

その他の質問

- 学童保育の現状
- 防災の取り組み
- 带状疱疹ワクチン助成の継続

学力調査



チーム新星
おくだ としのり
奥田 俊則 議員

**全国学力テストの
結果と課題は
問題ごとに
正答率を比較する**

答 経年変化分析調査において、全教科で成績が下がった。結果を分析し、課題や改善点を洗い出す方法は、

問 本調査の結果の分析は、問題の種類ごとに正答率を比較、どの単元の理解が不足しているかを特定する。無回答率や誤答傾向についても詳細に分析し、その結果を校長会等で共有し、個々の学校の課題に応じた改善策を講じる。

問 学習習慣の確立、学習意欲の向上に向けた取り組みは、

答 学習習慣の確立は、各学校で家庭学習のあり方を判断する。個々に応じた無理のない学習計画を立て、取り組ませている。あわせて、家庭学習の重要性を啓発している。学習意欲の向上は、「わかる・できる」という成功体験を積み重ねることが不可欠であり、児童生徒が主体となる授業スタイルの改善に向けて、研究を進めている。



学習風景

問 荒廃農地の把握と指導は、農地パトロール等で、管理不良な農地を把握し、当該農地の所有者に、適正に管理するよう改善文書を送付している。

問 農地法第42条「市町村長は必要な措置を講ずべきことを命じることができ」とあるが行使は、全国的に行っている事例がないので難しい。

答 改善文書を送付

自治会支援



無所属
あさはら としや
浅原 俊也 議員

**自治会の活性化と
更なる支援は
新たな支援策を検討**

答 役員のなり手不足や加入率の低下等の課題に対して、自治会の活性化が必要であり、町政の発展にもつながると考えるが、

問 町の発展には自治会の活性化は欠かせない。今後も自治会組織の発展のため連携していく。

問 自治会管理のごみ収集の仕組みは限界にきており、根本的に見直しを検討すべきでは。

答 今後も自治会と協力しながら現在のステーション方式による収集を継続していきたい。

問 自治会委託料の増額または自治会活性化助成金などの設置等、地域住民が求めるニーズに合った活動ができるよう支援する考えは、

答 現時点において委託料の増額は予定していないが、新たな支援策について検討したい。

問 役員のなり手不足や加入率の低下等の課題に対して、自治会の活性化が必要であり、町政の発展にもつながると考えるが、

答 全区間の設置は現時点では考えていないが、危険度やニーズにより検討したい。

問 明姫幹線橋梁から大中橋までの町道部分は、転落防止となつている植栽が枯れて抜け落ち、危険なところがある。安全に行するための対策は、

答 安全確保のため、植栽の植替えや柵の設置等を検討したい。



つながり・支え合う自治会へ町の支援を

喜瀬川側道の安全対策

問 新幹線橋梁から明姫幹線橋梁までの喜瀬川左岸（東側）について